

教育行政報告

最近の教育行政について報告いたします。

○ 最近の学校の様子について

今年度は、夏季休業前から暑い日が続きましたが、体調を崩す児童・生徒もおらず、予定どおり学習を進めることができました。また、7月23日から始まった33日間の夏季休業も無事終了し、8月25日から2学期を実施しております。子どもたちは感染予防対策を継続しながら、活気ある学校生活を送っております。

2学期は、9月上旬から10月下旬にかけて小・中学校の修学旅行、10月上旬には中学校の学校祭などの大きな行事を予定しております。子どもたち一人ひとりが充実した学校生活を送ることができるよう、引き続き学校と連携を密にして参ります。

また、今年度から配置された「ICT支援員」により、教員の個人研修や校内研修が充実し、授業におけるICT活用の日常化も進んできております。今後も学校訪問などを通じて、よりよい活用方法を働きかけて参ります。

○ 児童生徒による各種大会等の結果について

全国小学生陸上競技交流大会秋田県予選会において、男子5年 100mで象潟小学校5年 佐々木愛斗（ささき まなと）さん、女子6年 100mで平沢小学校6年 佐々木優月（ささき ゆづき）さんがそれぞれ第2位となりました。

また、県中体連総合体育大会において、仁賀保中学校サッカー部が準優勝、陸上競技では仁賀保中学校3年 熊谷碧衣（くまがい あおい）さんが女子4種で4位、水泳競技では象潟中学校3年 須藤心愛（すとう ここな）さんが女子50m自由形、同100m自由形で4位となり、それぞれ東北大会に出場しております。

全日本吹奏楽コンクール秋田県中央地区大会では、仁賀保中学校、象潟中学

校が金賞を獲得し、県大会に出場しております。

○ にかほ市教育支援センター（適応教室）の設置について

市内の小中学校では、不登校の児童・生徒が増加している傾向にあります。その対策として、令和5年4月に不登校児童・生徒の居場所「にかほ市教育支援センター（適応教室）」を新たに開設し、社会的自立に向けて支援して参ります。場所は、にかほ市総合福祉交流センター（スマイル）内で、9月中旬に移転する子育て支援課や10月1日に開設する児童家庭支援センター、及び子ども家庭総合支援拠点等との連携を図り、教育と福祉が融合した複合的な子育て支援体制を整備し、児童生徒や保護者の実情に応じた相談支援の充実に取り組んで参ります。

開設準備として関係する補正予算案を今定例会に提出しております。

○ 学校環境適正化検討委員会の設置について

今後の児童・生徒数の減少を見据え、市内小中学校の教育環境を整備し、より充実した学校教育を実現するため、10月に学校環境適正化検討委員会を設置し、学校規模の適正化やこれからの小中学校のあり方について検討して参ります。委員構成は30人以内とし学校関係者、PTA関係者、保育園・幼稚園関係者、有識者、市議会・地域の代表者などで構成することとしています。

10月から3月まで5回程度の開催を予定しており、学校のあるべき姿や、適正規模・適正配置に関する提言をいただくこととしております。

こちらも、設置のために必要な補正予算案を今定例会に提出しております。

○ 第38回奥の細道象潟全国俳句大会について

8月6日、道の駅象潟「ねむの丘」を会場として3年ぶりに通常開催いたしました。

子どもの部では、市内小・中学校7校から802句の投句があり、秋田県現代俳句協会幹事の齋藤みどり氏に選評をしていただきました。

一般の部では、全国各地の225人から450句の投句があり、現代俳句協会副会長の秋尾敏（あきおびん）氏に講演及び選評をしていただきました。

子どもの部では特選3句、秀逸（しゅういつ）10句、佳作15句、一般の部では特選3句、秀逸（しゅういつ）15句、佳作30句を入選として授賞式を行いました。

特選句につきましては、今後1年間、蚶満寺境内の看板に掲載しております。

本市は、おくのほそ道紀行の目的地の1つであり、秋田県内唯一の芭蕉ゆかりの地として、この伝統ある俳句大会を継続して参ります。

○ 青少年育成にかほ市民会議のリーダー研修会について

8月9日、市内3中学校の生徒会役員を対象に、リーダーとしての自覚を高めること、他校生徒との交流を通して連帯意識の高揚と資質の向上を図ること、ふるさとの魅力について学ぶことを目的に研修会がおこなわれました。

午前の研修では、一般社団法人「 Rond 」に協力を頂き、本市と夫婦町である松島町の中学生とオンラインで繋ぎ、お互いのまちの魅力について情報共有を図るなど、3年ぶりの交流を行っております。

午後の研修では、仁賀保高校生徒会に協力を頂き、グループワークのなかでリーダーとして自分たちは何を担うべきかを学びました。今後の生徒会活動に役立つ、非常に有意義な内容となりました。

○ 市民文化祭について

今年度も、飲食部門、バザー部門、体験部門の開催は見合わせますが、感染対策を万全に行なったうえで、コロナ禍以前の通常開催に近い形で行う予定です。「発表部門」は10月22日、23日の2日間の日程で仁賀保勤労青少年ホームを会場に有観客による開催、「展示部門」は、10月28日、29日、30日の3日間の日程で市内3公民館3体育館での開催とする予定です。

○ 木版画家池田修三生誕100周年事業について

6月4日から象潟郷土資料館では、記念企画展「暮らしを彩る木版画」を開催し、入館者数も順調に推移しています。市外においては、秋田県立図書館で6月16日から7月12日まで特別展示「池田修三とふるさと秋田」を開催し5,580人が来場しました。そのほか観光課との協力により、7月1日から9月

25日までの期間で秋田駅、秋田空港、にかほっと、郷土資料館を巡るスタンプラリーを実施しております。

今後は、秋の文化祭期間中に象潟公会堂をメイン会場とした「まちびと美術館」を開催し、あわせてオリジナルフレーム切手第4集の発売を予定しております。

○ WRO Japan 2022 秋田県中央地区予選会について

7月31日、8月5日の両日、国際ロボットコンテストWRO（ワールド・ロボット・オリンピック）2022 出場への第1歩となる秋田県中央地区予選会が、仁賀保公民館と仁賀保中学校においてそれぞれ開催されました。

この大会は、ロボット教材を用いた競技を通じて、子どもたちの創造性と課題解決能力を育成するとともに、全国大会さらには国際大会への出場という夢と目標を目指し、挑戦する心を培うことを目的として2010年から実施しております。

小学生部門には、本市及び由利本荘市の4校から9チームが参加し、中学生部門では、本市及び由利本荘市の4校から10チームが、また高校生部門では、秋田市内2校による1つの連合チームが参加して、組み立てたロボットを動かすプログラミング技術を競い合いました。

今回、各部門で優秀な成績を収められた仁賀保中学校と秋田高校・秋田高専の連合チームの2チームが、8月28日に静岡県浜松市で開催された決勝大会に出場しております。

○ 「南極・昭和基地ツアー」について

7月30日に、南極昭和基地の第63次南極観測隊越冬隊員と白瀬記念館を含む連携機関13カ所をオンラインで結び、南極隊の活動を紹介する「南極・昭和基地ツアー」を開催しました。

当記念館では26名が参加し、隊員から昭和基地内部の紹介を受け、質問コーナーでは基地と会場双方向でやり取りを行い、交流を深めました。

○ 白瀬南極探検隊記念館の企画展について

「白瀬隊のペンギン」と題した企画展を7月20日から11月6日まで開催しております。

当時初めてペンギンを見た白瀬隊は、かわいらしいイラストと文章を書き残しており、それらの資料を展示しております。

また、仁賀保中学校の美術部が製作したイラストのスタンプラリーやペンギンの折り紙、「にかほっぺん」の塗り絵や白瀬・南極クイズなど体験型のコーナーを企画しております。

今後とも、展示やイベントを通して白瀬臺の功績やにかほ市の魅力を発信するよう努めて参ります。